

# 2025年3月期中間期 決算説明資料

コージンバイオ株式会社

2024年11月27日



<b>I</b>	<b>会社概要</b>	<b>P. 2</b>
<b>II</b>	<b>2025年3月期中間期 決算概況</b>	<b>P. 19</b>
<b>III</b>	<b>2025年3月期 業績予想</b>	<b>P. 27</b>
<b>IV</b>	<b>成長戦略</b>	<b>P. 30</b>

# I

## 会社概要



医療と健康に貢献するバイオ事業を世界へ展開

医療

細胞治療・再生医療

バイオ事業

組織培養事業  
細胞加工事業  
微生物事業

健康

病の予防・検査  
食の安全  
医薬品の安全

## 動物血液の販売から始まり、培地の開発・製造販売を経て、細胞加工に展開

- 1981年4月 動物血液・細菌検査用培地の製造、販売を目的にコージン（株）を設立
- 1986年4月 細胞培養用培地の製造を開始
- 1989年6月 コージンバイオ（株）に商号変更
- 1993年11月 「体外診断用医薬品製造業・製造販売業」許可を取得し、  
体外診断用医薬品の製造を開始
- 2005年1月 「化粧品製造業・製造販売業」許可を取得、化粧品の製造を開始
- 2009年1月 「医療機器製造業・製造販売業」許可を取得
- 2012年3月 エンバイオ（株）の全株式を取得し完全子会社化
- 2014年5月 中国上海に高金生物科技（上海）有限公司を設立
- 2015年7月 （株）ピルムの全株式を取得し完全子会社化  
（株）ピルムにて「特定細胞加工物製造許可（施設番号FA3150006）」を取得
- 2018年6月 味の素（株）との合併会社味の素コージンバイオ（株）を設立
- 2019年8月 連結子会社であった（株）ピルムを吸収合併
- 2024年4月 東京証券取引所グロース市場上場

### 再生医療関連のイベント

1999年 薬事法に確認申請制度導入  
2001年 日本再生医療学会発足  
2003年 日本でヒトES細胞樹立

2006年 マウスiPS細胞樹立  
2007年 日本・米国でヒトiPS細胞樹立

2012年 山中教授ノーベル賞受賞  
2014年 再生医療等の安全性の確保  
等に関する法律施行



## 事業内容と売上構成

### 医療と健康に貢献する最先端のバイオ製品・サービスを提供

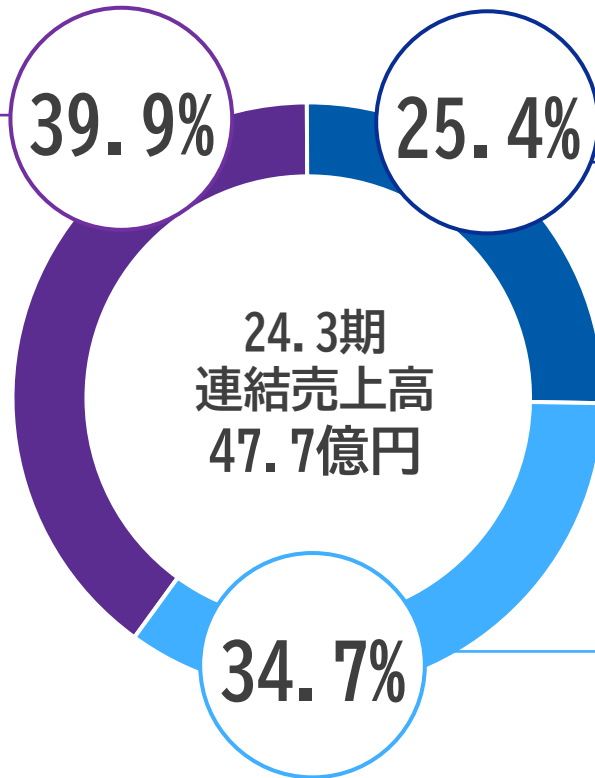
#### ■ 組織培養事業 (1986年4月～)

再生医療の研究機関に  
細胞培養用培地を提供

- 無血清培地をはじめとする細胞培養用培地を開発、製造・販売



- 理化学機器の販売
- 国内外で再生医療の市場が拡大  
自由診療領域の医療機関からの培地受注増加



#### ■ 細胞加工事業 (2015年7月～)

自由診療向けに、免疫細胞や  
幹細胞を受託培養

- 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づく  
特定細胞加工物製造



#### ■ 微生物事業 (1981年4月～)

様々な細菌検査用に、培地や  
新型コロナウイルス検査キット等を提供

- 臨床検査用・食品や医薬品・化粧品などの品質検査用の細菌検査用培地を開発、製造・販売



- 体外診断用医薬品の開発、製造・販売

## 拠点・グループ

### 国内6拠点、アジア2拠点を展開

#### アジア



- 高金生物科技(上海)有限公司  
(製品輸出・製造受託)
- 孝仁生物控股(香港)有限公司

#### 日本

- コージンバイオ株式会社 (本社、埼玉県坂戸市)
- 東京オフィス ● 名古屋オフィス ● 大阪オフィス
- 福岡オフィス
- エンバイオ株式会社
- 味の素コージンバイオ株式会社  
(本社敷地内)



本社



味の素コージンバイオ

#### CPC (細胞加工施設)

- 坂戸CPC
- 池袋CPC
- 名古屋CPC
- 広島CPC
- 新大阪CPC

組織培養事業

1

再生医療の進展に貢献する独自のポジションと製品

細胞加工事業

2

自社培地とのシナジーで急成長する細胞加工事業

微生物事業

3

「病の予防・食の安全」を叶える、高い存在価値



## 培地とは

培地とは微生物（細菌）の生育や生物組織（細胞）の増殖のために人工的に作られた環境をいう。寒天などで固められた固体培地や、液体状で存在する液体培地などがあり、どのような細菌、細胞を生育、増殖させるかにより、培地の成分や形状は異なる。

### 組織培養事業



細胞培養用液体培地

### 組織培養事業



細胞培養用粉末培地

### 微生物事業



細菌検査用培地

## 細胞培養用培地における差別化戦略

### 世界の競合企業と遜色ない強力な製品群・他にない製品開発力

#### KBM ADSCシリーズ

- 再生医療に使用される細胞としては最も有力な細胞の一つである間葉系幹細胞を培養する主力製品



KBM ADSC-1 & 2  
(26,000円、23,000円)



KBM ADSC-4  
(45,000円)



KBM ADSC-5  
(55,000円)

#### KBM 500シリーズ

- 免疫細胞培養用培地は、当社の得意分野であり、高性能が高い評価を得ている
- 500シリーズは、T細胞を始めとする様々なリンパ球の培養に対応



KBM 550  
(15,000円)



KBM 550BEL  
(16,500円)

#### KBM Neural stem cell

- 脳梗塞等の治療で注目される神経幹細胞を培養

#### KBM VEC-1

- 様々な組織を作製する上で必須となる血管網の構築を促す血管内皮細胞を培養

#### KBM NHEK XF-2

- 皮膚の再生に必要となる表皮角化細胞を培養

# 再生医療およびバイオ医薬品製造向け培地の開発に注力

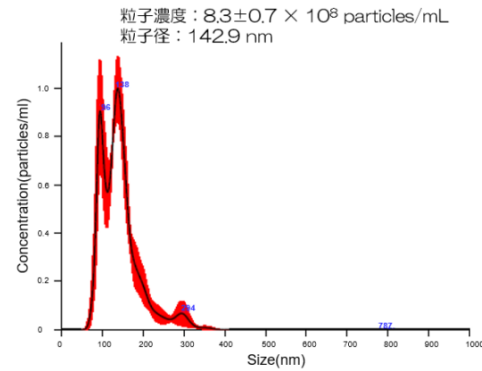
## 新規ラインナップ

### KBM EV Pure

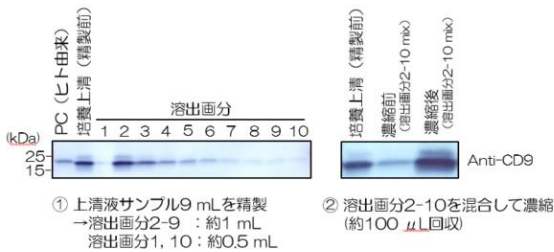
- 次世代再生医療の主役として期待されるエクソソームを簡便かつ大量に取得するための培地。



(500mL、30,000円)



産生されたEVの粒子濃度・粒子径分布



マーカー発現の確認

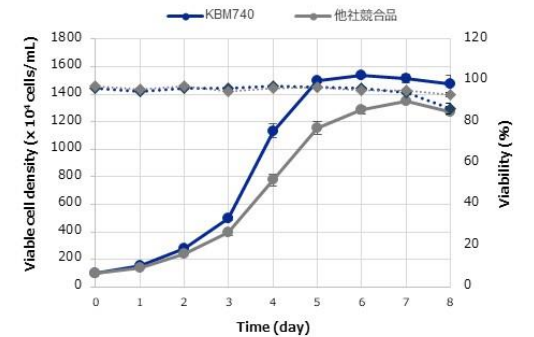
★データ提供：日本大学 生物資源科学部 獣医学科 獣医外科学研究室 枝村一弥 教授

### KBM 740

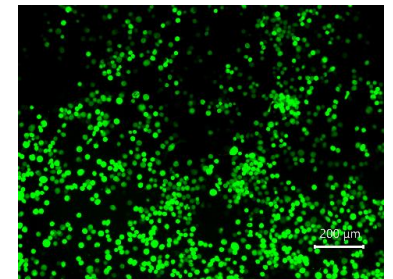
- 医薬品製造用細胞として期待される昆虫細胞を高密度かつ安定して培養する培地。



(500mL、8,000円)



昆虫細胞 (Sf9) 増殖試験



バキュロウイルスによるタンパク質発現実験 (位相差・染色画像)

積み上げた研究機関・大学とのネットワーク

培地に対する高評価により、数多くの共同研究を推進

### 共同研究の事例①

臨床解析と要素技術の開発



社会連携講座  
「臨床幹細胞生物学講座」  
(2022年7月～)

### 共同研究の事例②

オルガノイド



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY



個別化医療実現に向けた  
新規がんオルガノイド調製液  
及び培養液の開発

そのほか、多数の大学や研究機関、企業との強固なリレーションを構築



事業内容

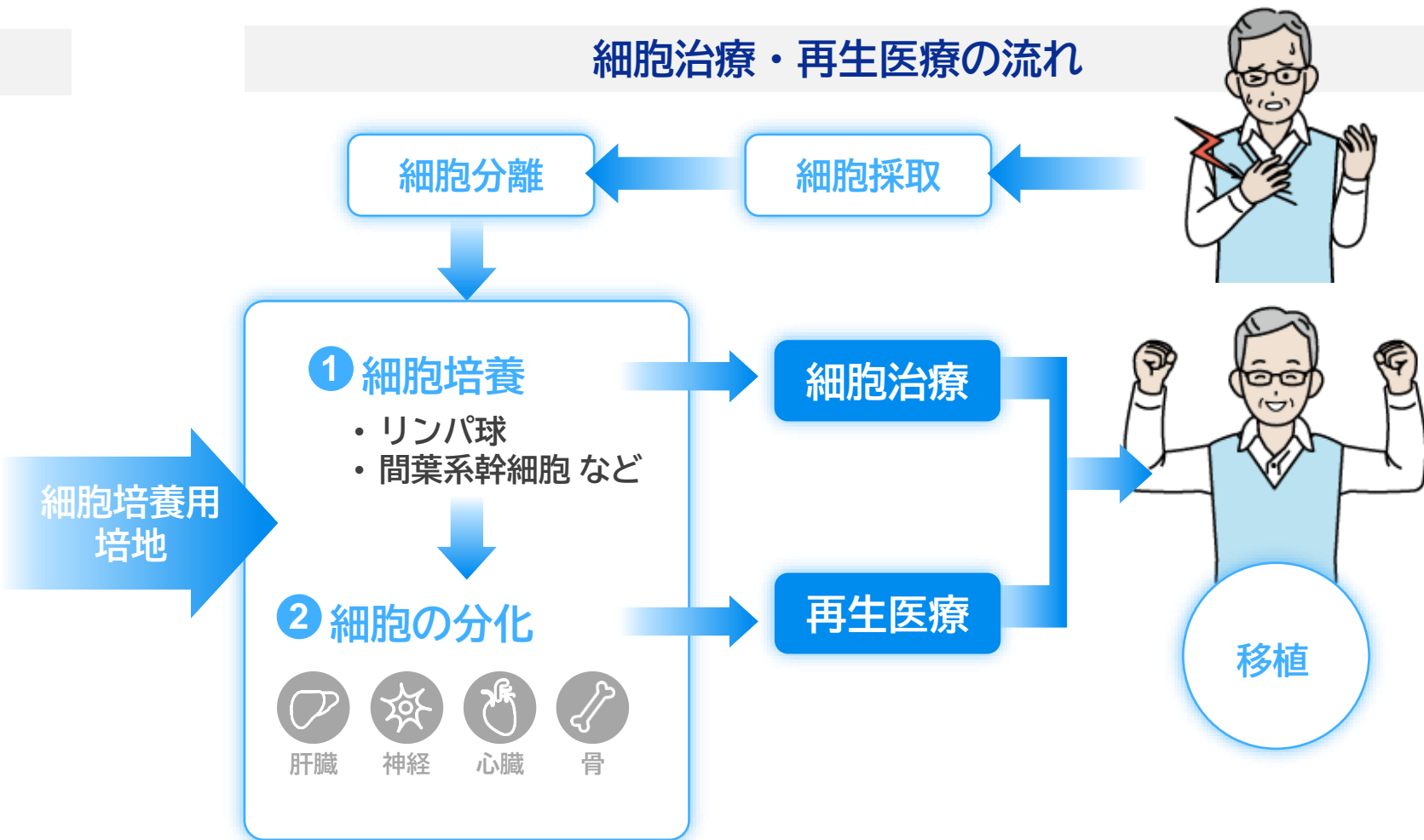
細胞治療、再生医療の研究や臨床利用、バイオ医薬品製造などへ細胞培養用培地を提供

細胞培養用培地

細胞を培養するために用いられる  
組織間液を模した液体



細胞治療・再生医療の流れ





## 特長と強み②

組織培養事業

1

再生医療の進展に貢献する独自のポジションと製品

細胞加工事業

2

自社培地とのシナジーで急成長する細胞加工事業

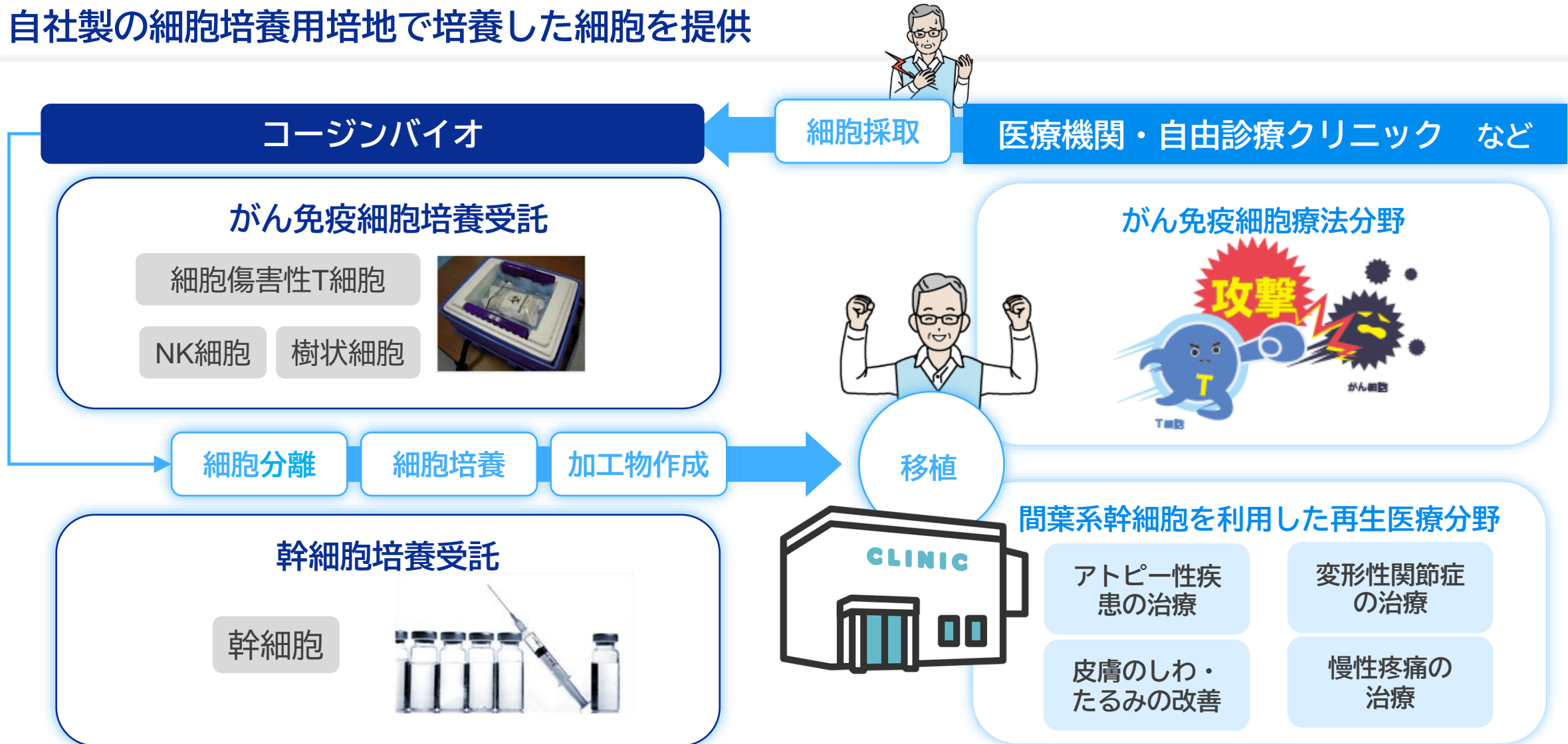
微生物事業

3

「病の予防・食の安全」を叶える、高い存在価値

自由診療需要を捉え、再生医療の普及と知名度向上に貢献

自社製の細胞培養用培地で培養した細胞を提供



## 特長と強み③

組織培養事業

1

再生医療の進展に貢献する独自のポジションと製品

細胞加工事業

2

自社培地とのシナジーで急成長する細胞加工事業

微生物事業

3

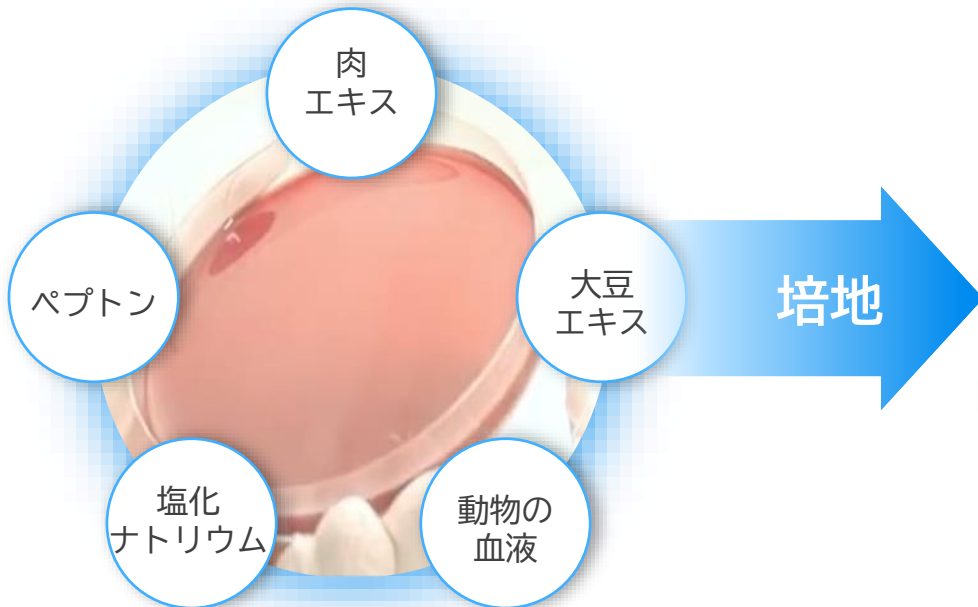
「病の予防・食の安全」を叶える、高い存在価値

## 事業内容

医療機関、食品企業や製薬企業など、様々な分野での細菌検査に使用される細菌検査用培地、および抗原検査キットの製造

### 細菌検査用培地

微生物が成長しやすいように、ペプトン、肉や大豆などのエキス、動物の血液、塩化ナトリウムなど、微生物の増殖に必要な栄養素を人工的に加えた環境



医療機関

疾患診断検査

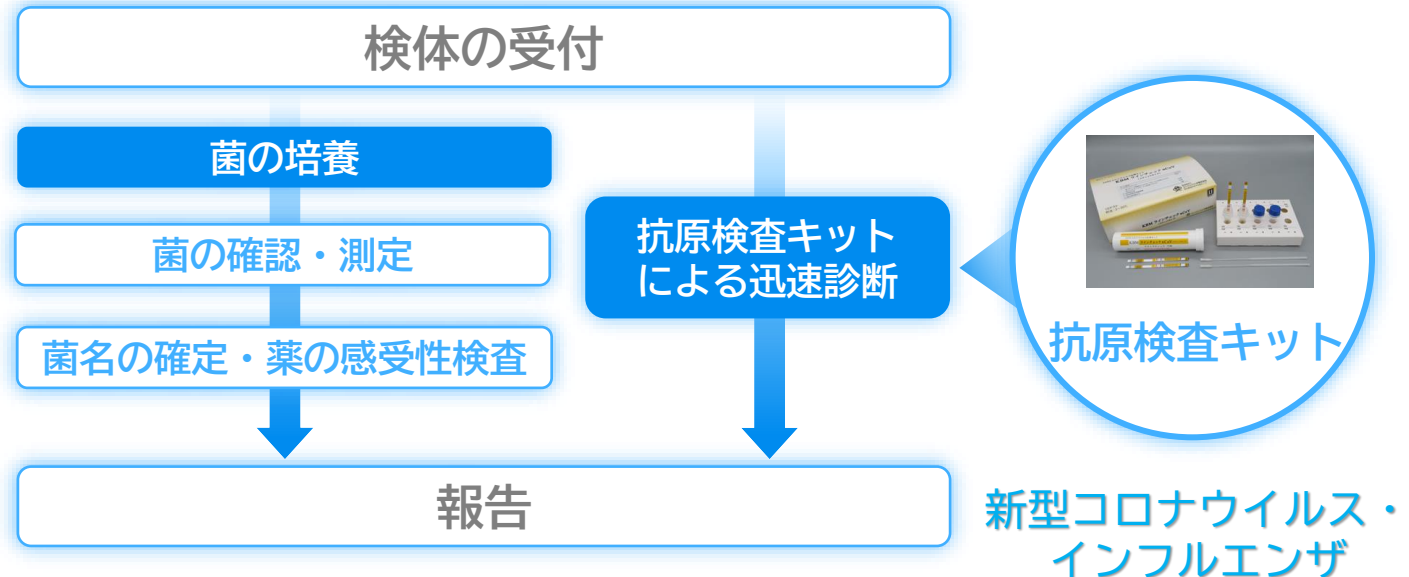
食品分野

病原菌検査

製薬・化粧品分野

環境菌検査

### 医療機関における微生物検査の流れ



病院・開業医向けの製品、OTC（薬局・薬店）向けの製品

## 呼吸器感染症のための体外診断用医薬品

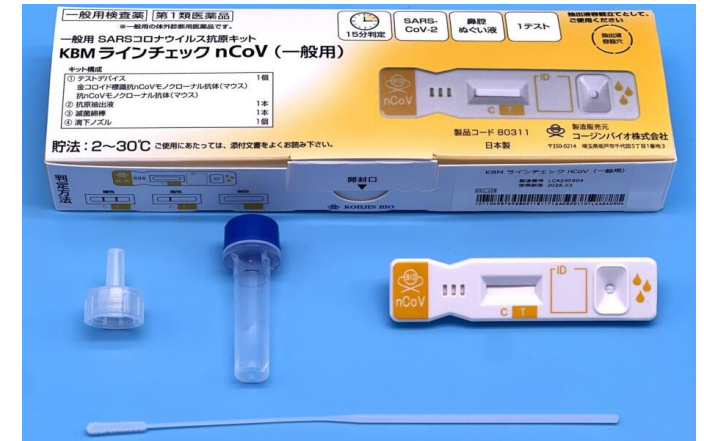
### ◎KBMラインチェックシリーズ(医療用)



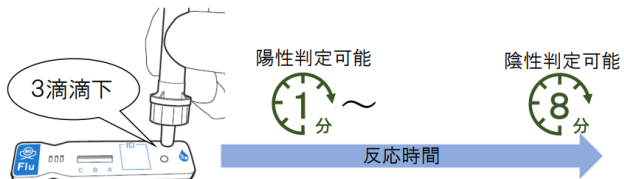
### KBMラインチェックnCoV/Flu(一般用)



### KBMラインチェックnCoV (一般用)



✓陽性判定は**1分**から可能



- テストラインとコントロールラインが出現した時点で陽性判定可能。
- 陰性判定は8分で行ないます。

◎自社ブランド KBMラインチェックシリーズでの一般用検査薬・第一類医薬品

- ・ 体調が気になる場合等のセルフチェックに最適
- ・ 個包装で個人向けの一般用検査薬を実現

➤ **新型コロナ、インフルエンザのための一般用検査薬・第一類医薬品**



## ハイライト

## 体外診断用医薬品『KBMラインチェックAPAP』新製品上市のご案内

- 自己免疫性肺胞蛋白症の診断補助として、血清名中の抗GM-CSF抗体を検出できます
- 血清5 $\mu$ Lで測定できます
- 約15分で抗GM-CSF抗体の有無を判定できます

## 製品概要



一般的名称	抗GM-CSF抗体キット
医療機器分類	管理医療機器
クラス分類	クラスII
承認年月日	2024年5月28日
承認番号	30600EZX00015000

抗GM-CSF抗体キット

体外診断用医薬品

## KBMラインチェックAPAP

承認番号 30600EZX00015000

貯法 2~30℃

有効期間 製造後6ヶ月(外箱に表示の使用期限内にご使用ください)

包装単位 1回用

個装サイズ 190mm(幅)×60mm(奥行)×25.5mm(高さ)

カタログ番号 80610(JANコード:4987692806102)

使用目的 血清中の抗GM-CSF抗体の検出  
(自己免疫性肺胞蛋白症の診断の補助)

測定原理 本品は、毛細管現象と抗原抗体反応を用いたイムノクロマト法(Immunochromatographic Assay)を測定原理としています。  
血清中に抗GM-CSF抗体が存在した場合、テストストリップ上の抗GM-CSF抗体判定部に固定化された遺伝子組換えヒトGM-CSFに捕捉され、テストライン出現位置に集積し赤紫色のラインが出現します。本品は、この赤紫色のラインを目視で確認し、試料中の抗GM-CSF抗体の有無を判定します。

キットの構成 テストデバイス: 金コロイド標識抗ヒトIgGモノクローナル抗体(マウス)  
遺伝子組換えヒトGM-CSF(大腸菌)  
展開液: リン酸緩衝液(0.1%BSA、0.1%Tween20、0.12% MPC ポリマー、0.09%アジ化ナトリウム含有)



販売元

ノーベルファーマ株式会社  
東京都中央区新川1-17-24

製造販売元

コージンバイオ株式会社  
〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田5丁目1番地3

## II

# 2025年3月期中間期 決算概況

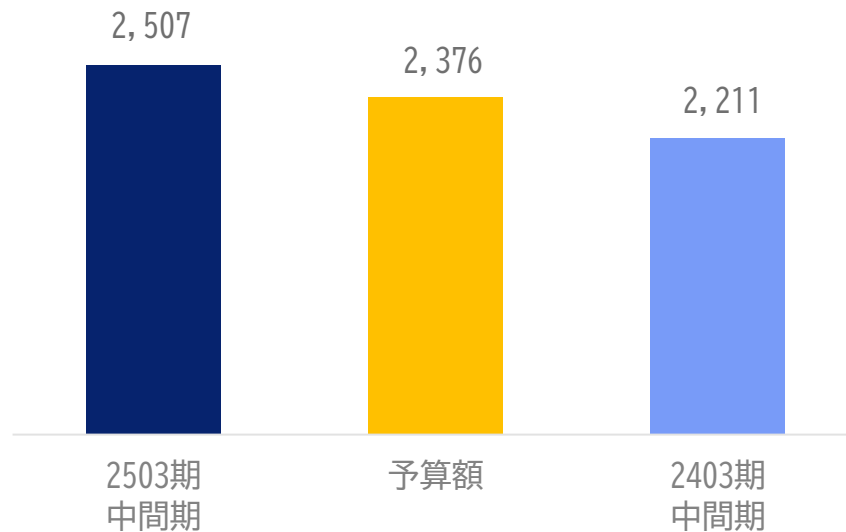


## ハイライト

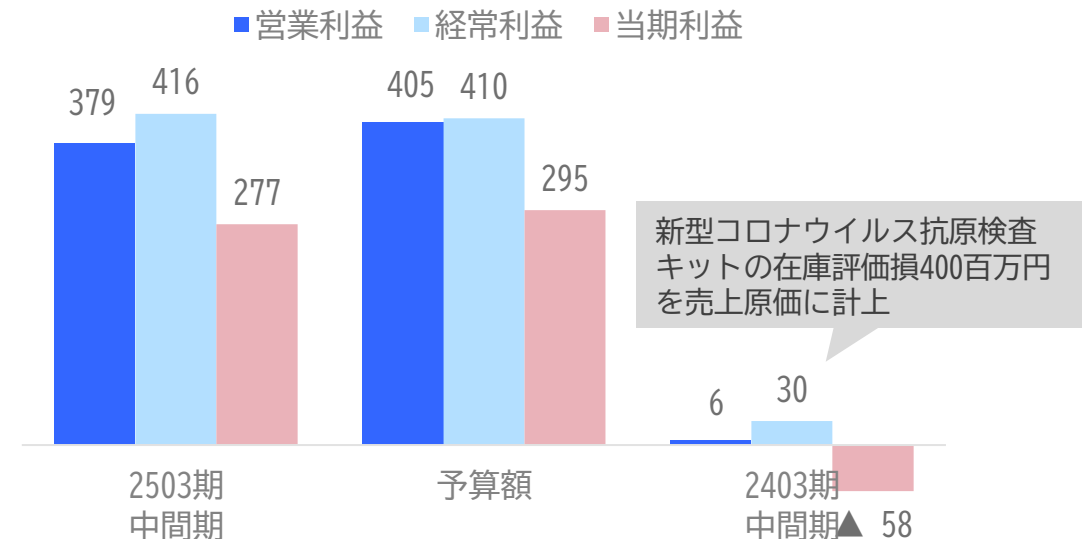
# 組織培養培地及び抗原検査キットの売上増加が中間期の業績に貢献

- 売上高は2,507百万円となり、予算比105.5%、前年同期比113.4%と順調な伸びをみせる
- 組織培養事業及び微生物事業は堅調に推移したが、細胞加工事業は関連製品の原料見直しの影響により売上高・営業利益共に予算未達

### 売上高 (百万円)



### 利益 (百万円)



## 連結P L比較

売上高は順調に推移。利益も新基幹システム導入費用増あるが概ね予算通り

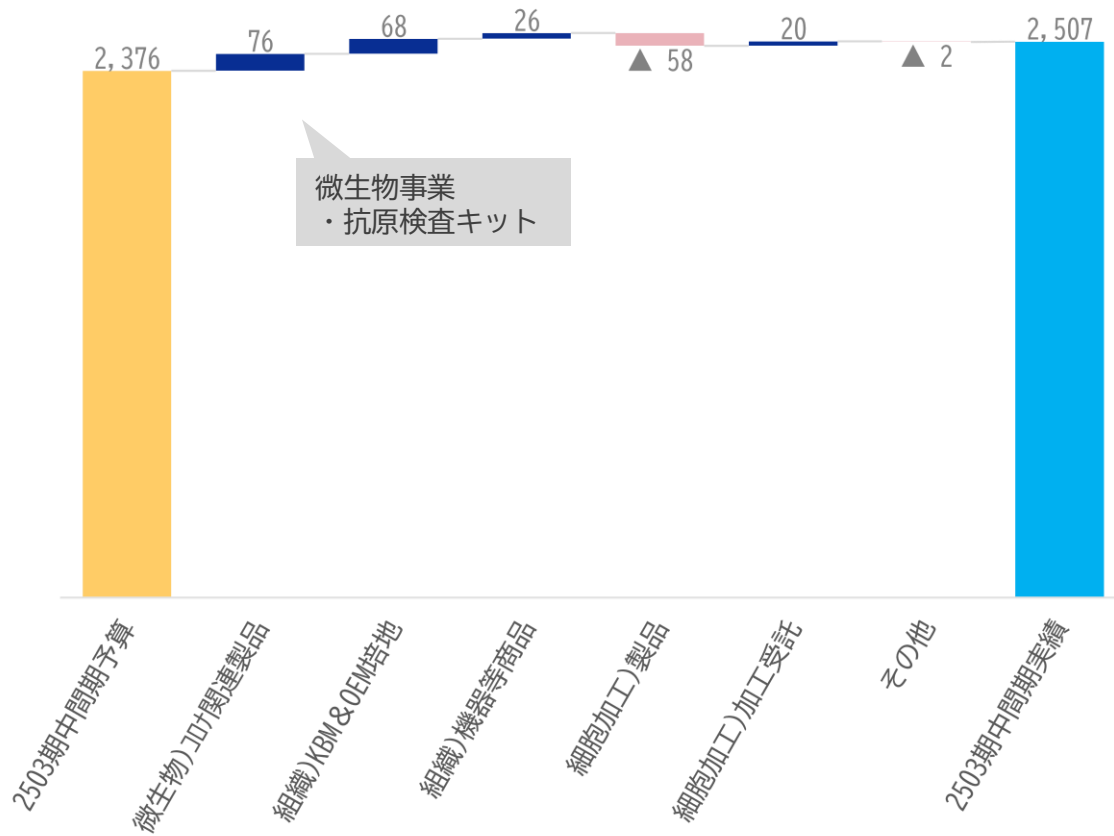
(百万円)

	2403期中間期 実績	2503期中間期					
		実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	予算	予算比 増減額	予算比 達成率
売上高	2,211	2,507	296	13.4%	2,376	130	105.5%
営業利益	6	379	373	6080.0%	405	▲ 25	93.8%
営業利益率	0.3%	15.1%			17.0%		
経常利益	30	416	386	1255.4%	410	6	101.5%
経常利益率	1.4%	16.6%			17.3%		
中間期純利益	▲ 58	277	335	—	295	▲ 17	93.9%
中間期純利益率	—	11.1%			12.4%		
総資産	5,722	8,515			—		
純資産	2,905	5,279			—		

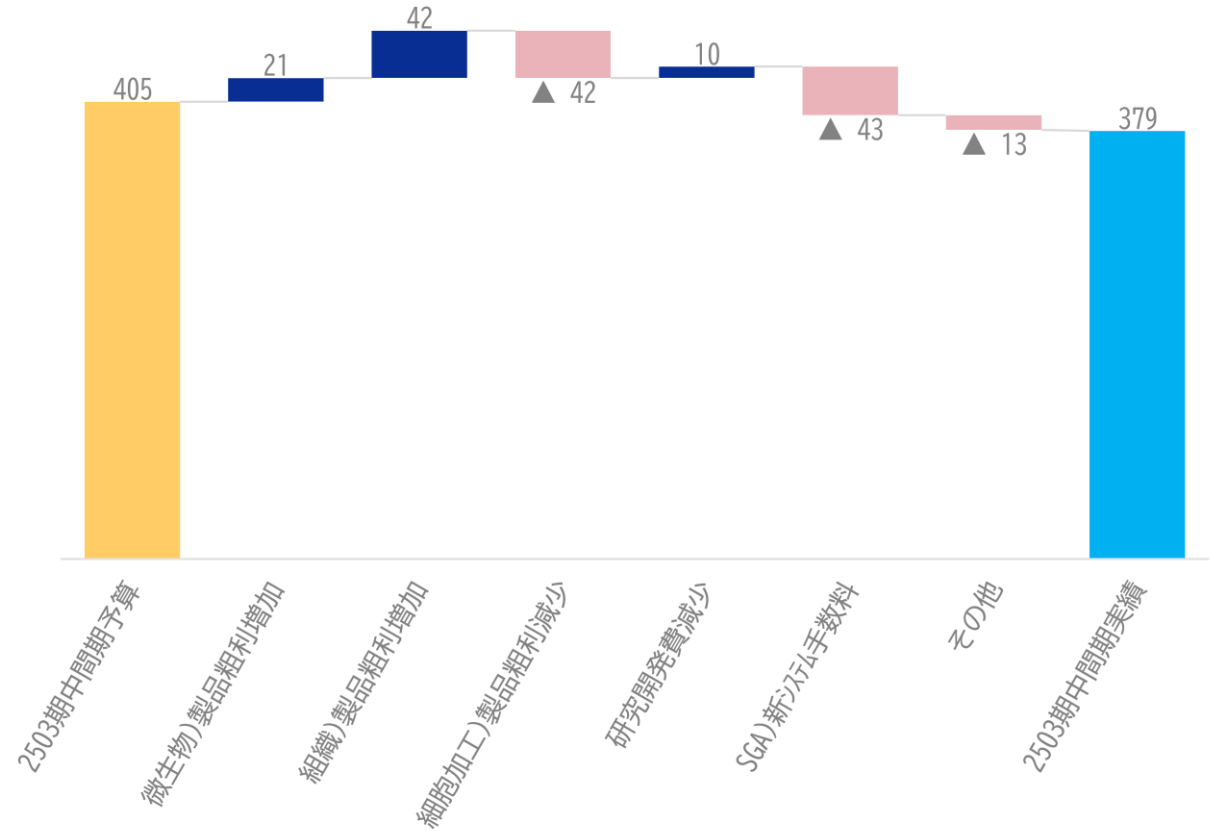
## 増減分析（対予算）

# 新型コロナウイルス製品売上増加の一方、細胞加工製品の原料見直しの影響及びシステム関連費用が発生

### 売上高（百万円）



### 営業利益（百万円）





## セグメント別業績

# 組織培養事業のKBM・OEM製品、及び微生物事業の抗原検査キットにより売上増加

(単位：百万円)

	2403期中間期		2503期中間期		
	実績	構成比	実績	構成比	増減率
連結	売上高 2,211		2,507		13.4%
	営業利益 6		379		6,080.0%
	営業利益率 0.3%		15.1%		
組織培養事業	売上高 959	43.4%	1,101	43.9%	14.8%
	営業利益 322	—	350	92.2%	8.6%
	営業利益率 33.7%		31.8%		
細胞加工事業	売上高 550	24.9%	629	25.1%	14.3%
	営業利益 214	—	190	50.2%	▲11.2%
	営業利益率 39.0%		30.3%		
微生物事業	売上高 700	31.7%	776	31.0%	10.9%
	営業利益 ▲332	—	103	27.3%	—
	営業利益率 —		13.4%		

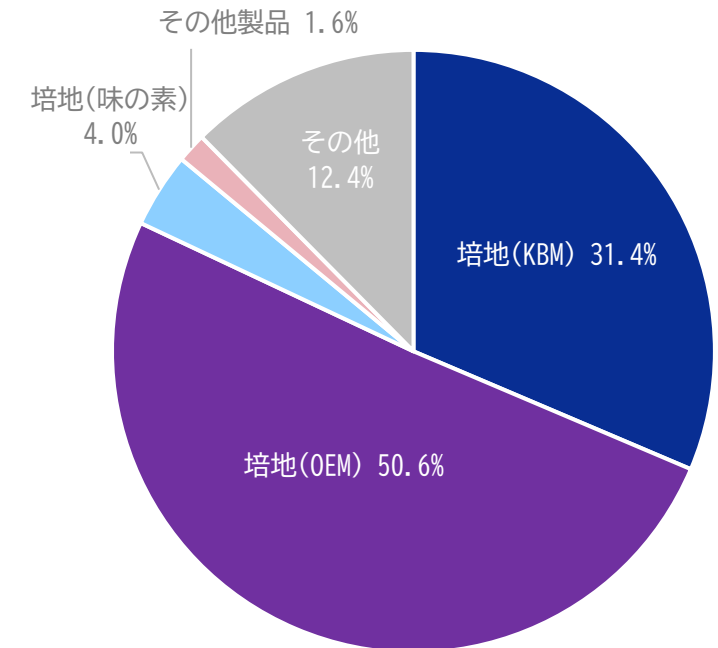
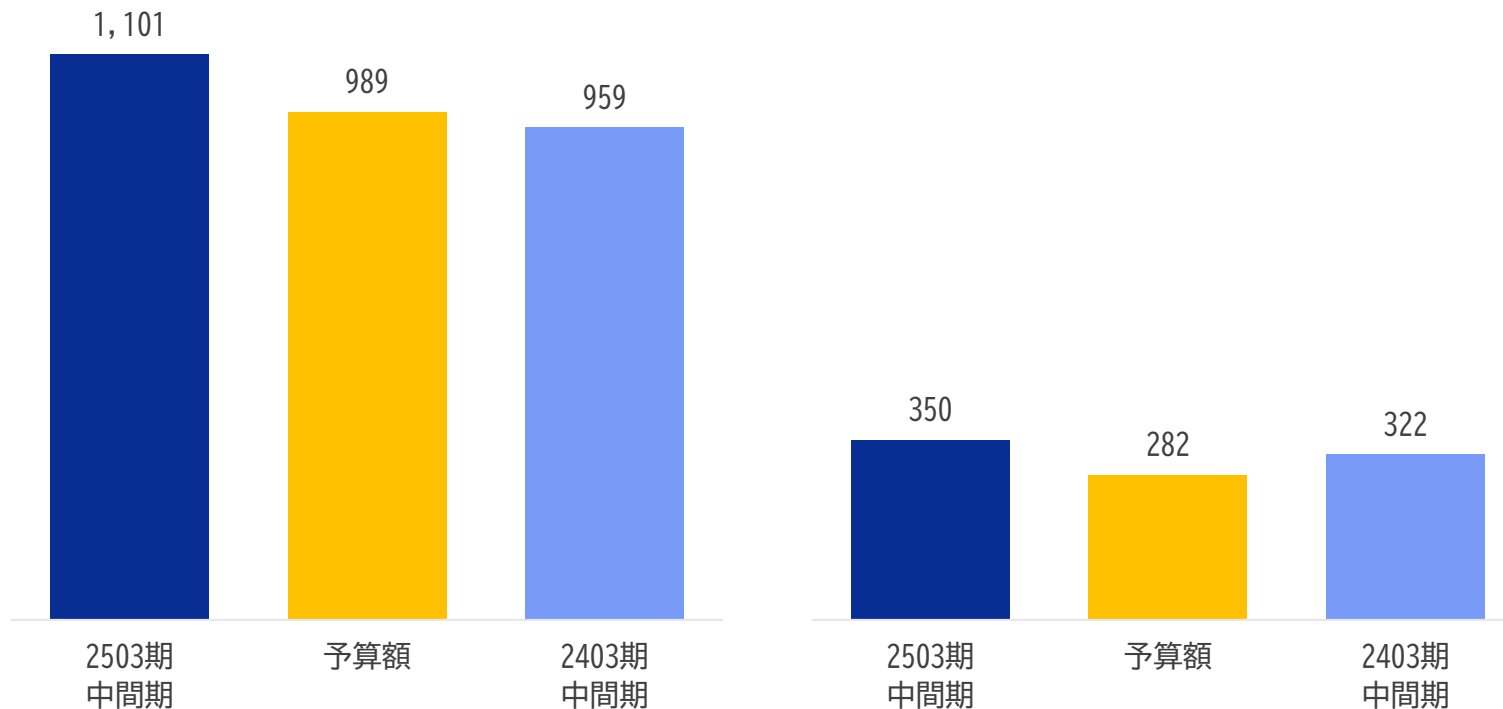
## 組織培養事業

- 売上高は、前年同期比+14.8%、予算比+11.2%の増収
- 営業利益は、前年同期比+8.6%、予算比+24.1%の増益
- 医療機関におけるインバウンド患者の増加等により、KBM・OEM培地の使用量が増加し売上高・利益とも増加
- 中国国内における再生医療マーケットの成長に伴い、上海子会社の業績も好調に推移

売上高 (百万円)

営業利益 (百万円)

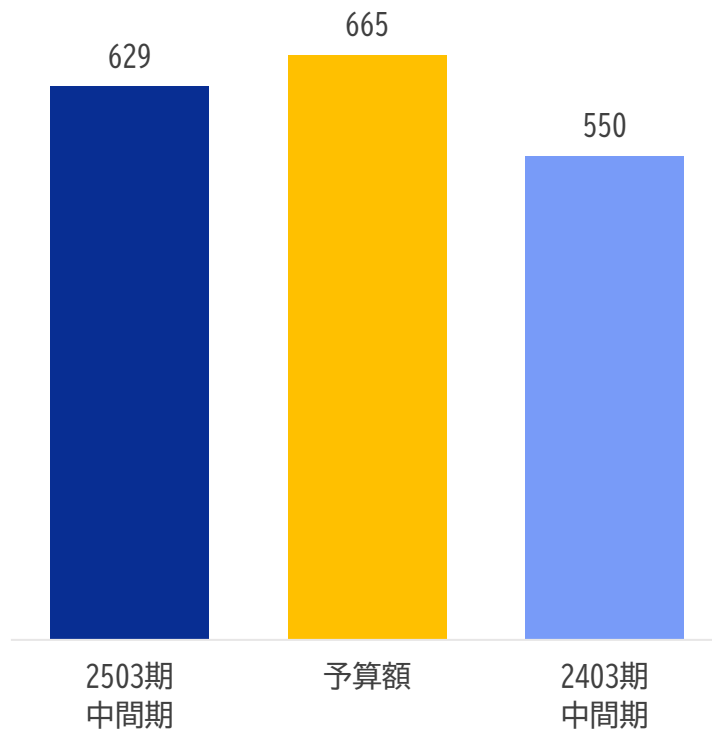
売上構成 (品目別)



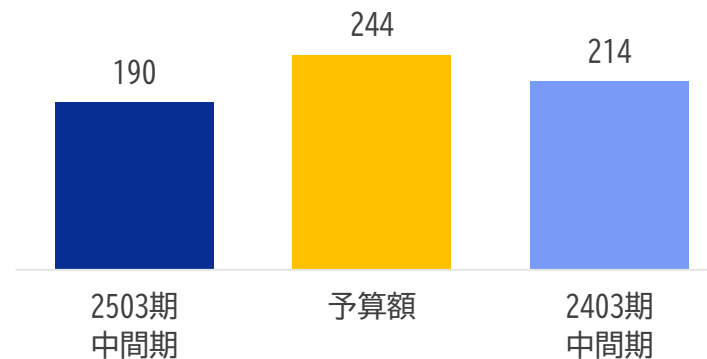
## 細胞加工事業

- 売上高は、前年同期比+14.3%の増収、予算比▲5.4%の減収
- 営業利益は、前年同期比▲11.2%、予算比▲22.1%の減益
- 受託売上高は増加したものの、細胞加工関連製品の原料見直しの影響により、細胞加工事業全体としては予算比減収・減益

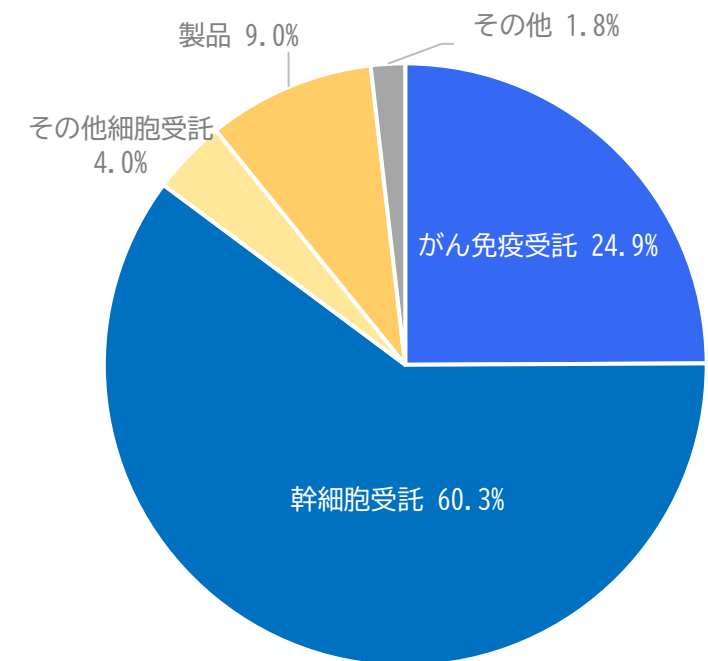
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



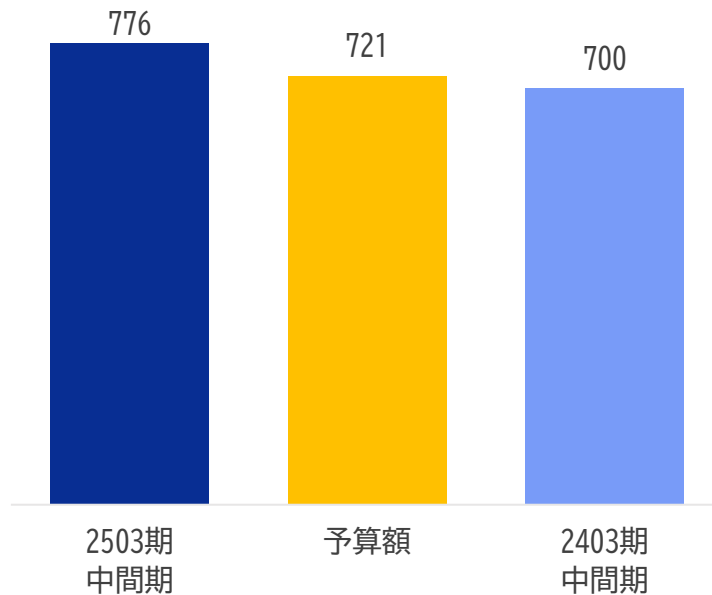
売上構成 (品目別)



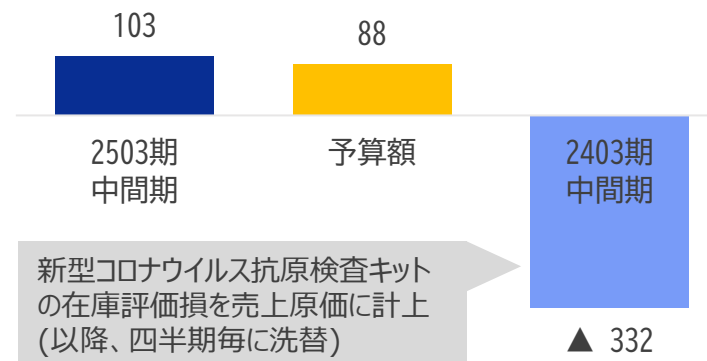
## 微生物事業

- 売上高は、前年同期比+10.9%、予算比+7.7%の増収
- 営業利益は103百万円と予算比+17.2%の増益（前年同期は在庫評価損の影響により332百万円の営業損失）
- 2024年7月以降における新型コロナウイルス感染者拡大の影響で、抗原検査キットの売上が大幅に増加し、売上・利益に貢献

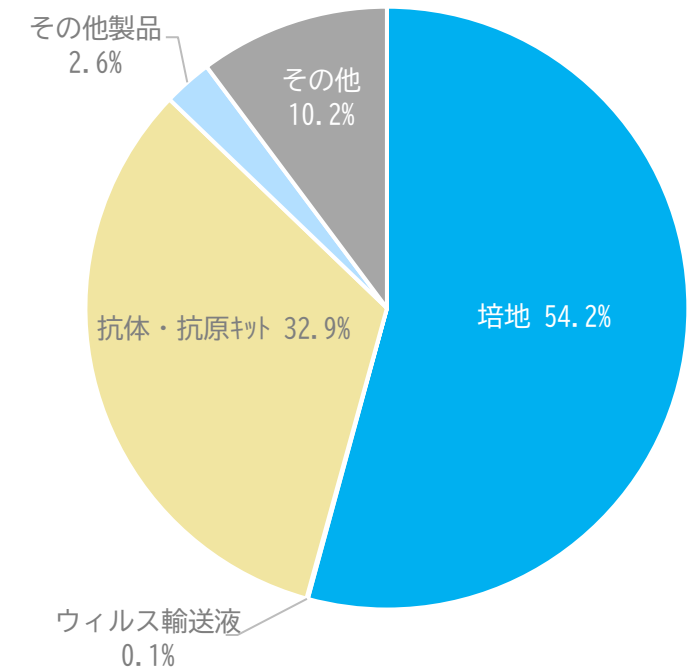
売上高（百万円）



営業利益（百万円）



売上構成（品目別）



### Ⅲ

## 2025年3月期 業績予想





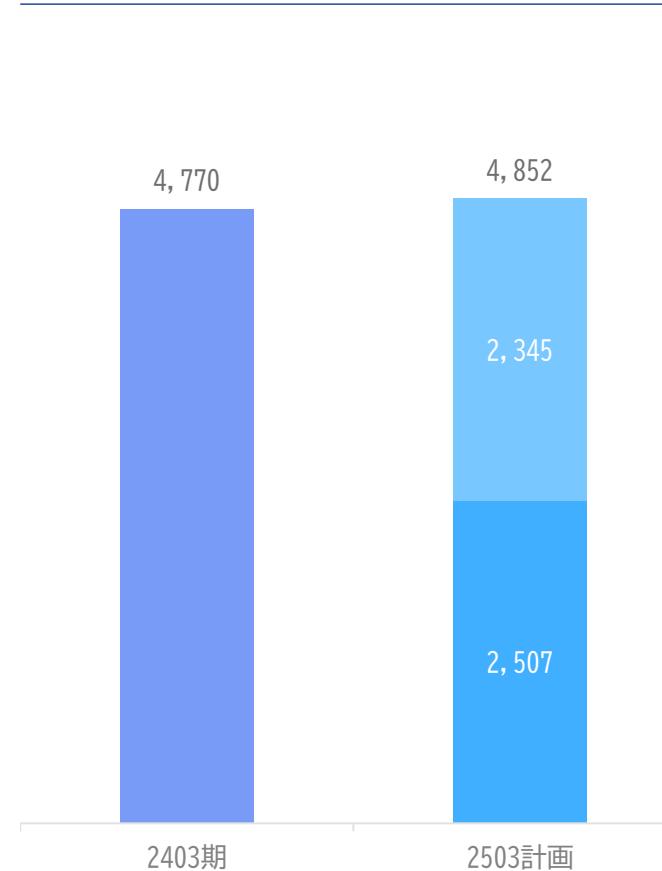
## 連結業績予想

# 当初業績予想及び配当予想に修正なし

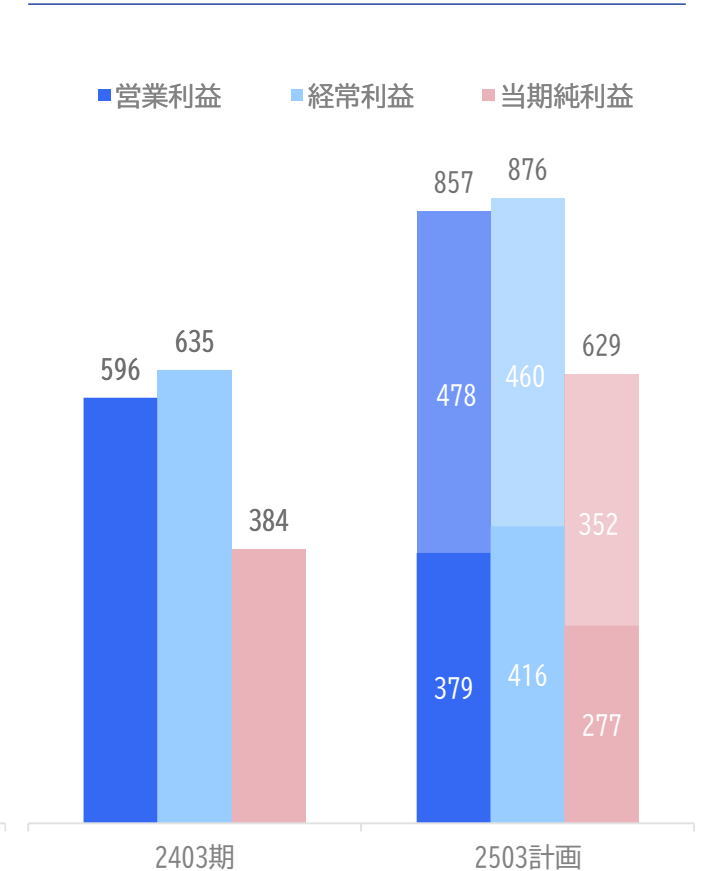
(百万円)

	2403期	2503期		
	実績	計画	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	4,770	4,852	82	1.7%
営業利益	596	857	260	43.7%
営業利益率	12.5%	17.7%		
経常利益	635	876	240	37.9%
経常利益率	13.3%	18.1%		
当期純利益	384	629	244	63.5%
当期純利益率	8.1%	13.0%		
一株利益	92.4円	124.8円		
一株配当	14.0円	14.0円		
配当性向	15.1%	11.2%		

売上高 (百万円)



利益 (百万円)



## セグメント別予想

# 組織培養事業及び細胞加工事業は順調に業績を伸ばす予定

(単位：百万円)

		2403期		2503期		
		実績	構成比	計画	構成比	前期比 増減率
連結	売上高	4,770		4,852		1.7%
	営業利益	596		857		43.7%
	営業利益率	12.5%		17.7%		
組織培養事業	売上高	1,904	39.9%	2,017	41.6%	6.0%
	営業利益	609	102.1%	605	70.6%	▲0.6%
	営業利益率	32.0%		30.0%		
細胞加工事業	売上高	1,209	25.4%	1,392	28.7%	15.1%
	営業利益	472	79.1%	518	60.4%	9.8%
	営業利益率	39.0%		37.2%		
微生物事業	売上高	1,656	34.7%	1,442	29.7%	▲12.9%
	営業利益	▲69	▲11.6%	174	20.3%	-
	営業利益率	-		12.1%		

# IV

## 成長戦略





## 成長戦略① 細胞培養用培地製造アジアNo.1を目指す

種々の細胞に合致する製品の供給と、新たなニーズに沿う製品を開発

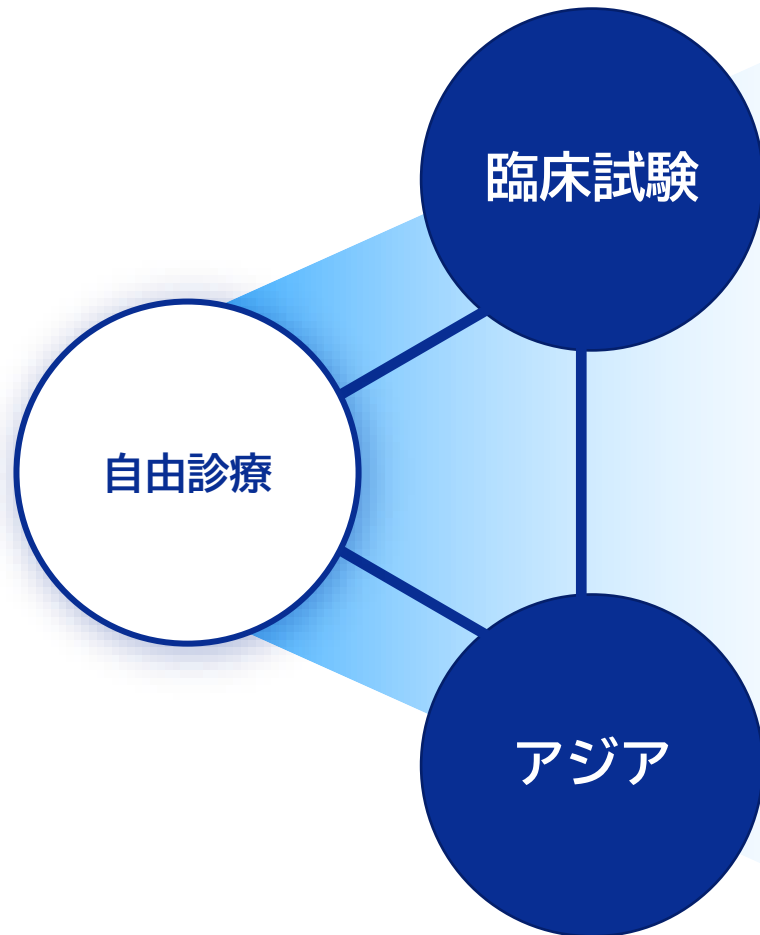


\*：出所）(株)グローバルインフォメーション市場レポート

：当社が想定する細胞培養用培地における最大の市場規模を意味しており、当社が2024年3月現在で営む事業に係る客観的な市場規模を示す目的で算出されたものではありません。  
TAMIは、一定の前提の下、外部の統計資料や公表資料を基礎として、当社が推計したものであり、その正確性にはかかる統計資料の推計に固有の限界があるため、実際の市場規模はかかる推計値と異なる可能性があります。

## 成長戦略② 細胞加工の再生医療展開

自由診療市場に加え、臨床試験市場へも進出し、海外展開も視野に成長を加速する



## 施策

- 設備投資の実施・ボトルネック解消：設備投資により生産能力を増強しバックオーダーを解消
- ニーズのある海外へのCPC拡大
- 海外渡航制限緩和によるインバウンド患者増加に対応
- 関節軟骨再生細胞治療製品を足掛かりに、細胞治療分野を開拓

## 設備の導入

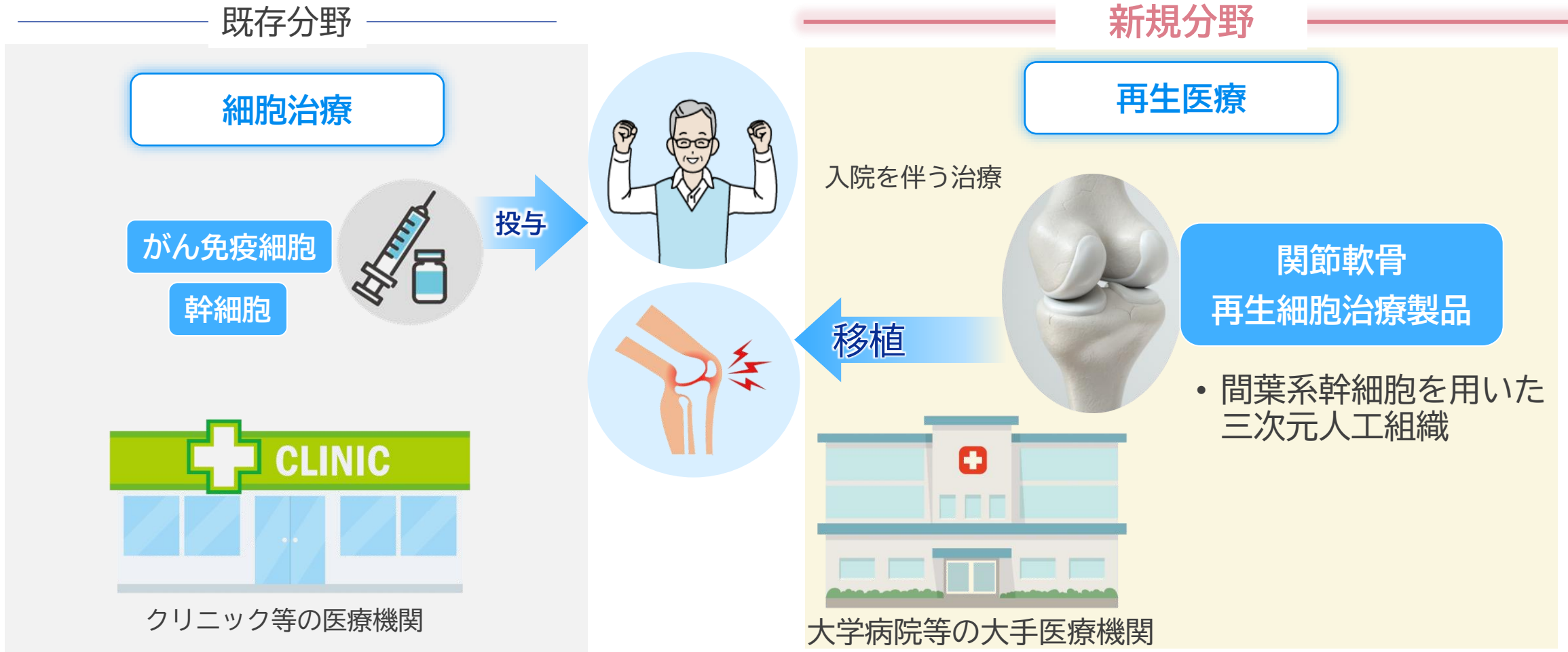
- CDMO事業に関するCPC施設の建設及び新規設備の導入
- 主に西日本管轄として広島にCPC開設





## 成長戦略② 再生医療への業容拡大

### さらなる差別化により、成長に弾みをつける



## 成長戦略② 細胞加工の再生医療展開

### CDMO事業により、バイオ創薬補助へ



当社による創薬補助

CDMO事業

培養技術

自社製培地

現在、マスターセルバンク作製、治験薬製造等商談中

## 成長戦略③ 抗原検査キットのグローバル展開

## 新型コロナウイルスの他にも、地球規模で問題視される感染症

# Malaria



## 医療用抗原検査キットの活用 マラリア

- 世界で2億1,900万件以上検査
- 92%以上がアフリカ
- 6%が東南アジア
- 検査のほとんどが顕微鏡によって診断

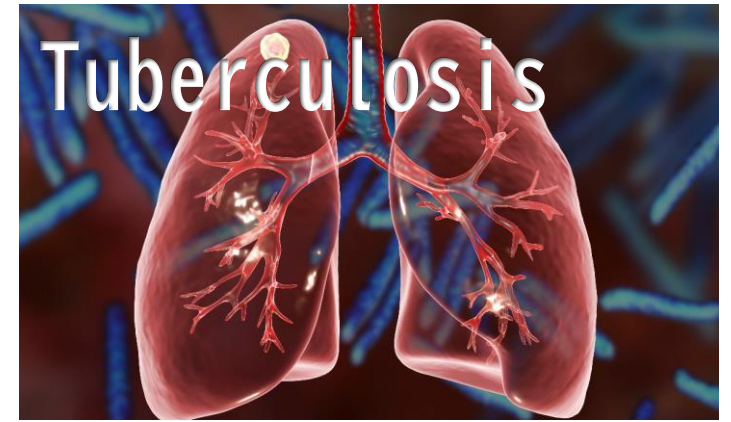
# Dengue



## デング熱

- 世界で毎年3億9,000万人が感染
- デング熱検査の世界市場は2021年に5億2,813万米ドル、2027年までに7億2,245万米ドルに達すると予測
- 5.22%の年平均成長率

# Tuberculosis



## 結核検査用培地 結核

- 約17億人が結核に感染し、そのうち年間1,000万人が新たに発病し、160万人が死亡していると推定されている
- HIV感染者が増加するなかで、結核との重感染者の重症化が心配されている
- 日本の患者数は11,519人(2021年)

## 中長期の成長イメージ

各分野での量×質の向上により、飛躍的な成長が望める

